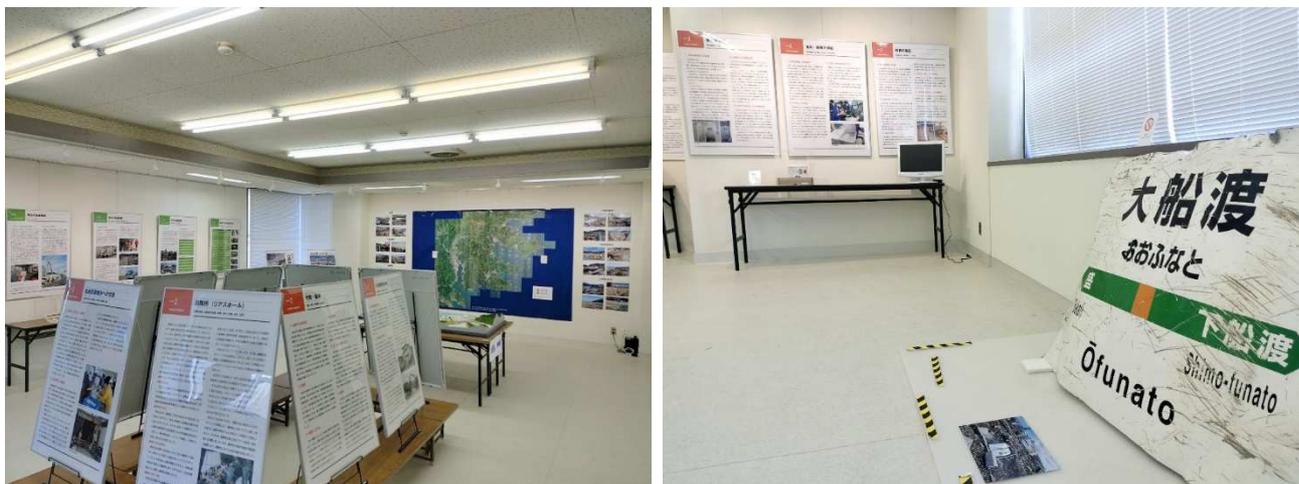


「大船渡市防災学習館の紹介」

所在地	大船渡市赤崎町字山口 80-38(漁村センター内)
連絡先	0192-22-9833(赤崎地区公民館)
基本情報	<p>【コンセプト】 東日本大震災時の避難所としての状況をそのまま残し、当時の臨場感を感じながら、過去の津波被害の記憶や教訓の伝承、洪水や土砂災害等の大規模自然災害に対する備えなどについて学ぶことができる施設。 館内では、東日本大震災の被害状況、震災からの復旧・復興状況のほか、洪水や土砂災害などの大規模自然災害の脅威や備えなど、それぞれのテーマに沿った説明パネルや防災資機材等を展示。 ガイドによる館内案内では、震災当時の漁村センターの様子などを紹介し、災害の脅威・被災を乗り越える苦労、災害に備えて準備することの大切さを伝えている。 自由見学も可。</p> <p>【利用に関して】 利用方法: 事前予約制。入館料・ガイド料無料。 館内ガイドを希望する場合は、その旨申し出ください。 利用対象: 個人、団体 どなたでも 所要時間: 1時間程度(希望に応じて時間の調整は可能) 開館時間: 9時～17時。毎週水曜日休館。</p>
施設紹介	<p>【1F 災害に備えるゾーン】</p>  
【説明】	<p>津波災害だけでなく、洪水や土砂災害などの自然災害に対する恐ろしさや、自然災害から自らの命を守るための水害時における避難行動、日頃からの災害への備えや家庭内備蓄などについて、パネルやハザードマップ、災害備蓄品を展示し紹介しています。</p>

【2F 東日本大震災の被害状況を伝えるゾーン】



【説明】

東日本大震災の地震・津波の概要、被害状況(人的・住家被害、ライフライン被害など)、災害対応(災害対策本部の初期初動対応、消防団活動、被災しなかった地域による支援活動など)について、ジオラマやパネル等を展示して紹介しています。

【2F 避難生活体感ゾーン】



【説明】

震災当時の避難所生活の様子、復旧・復興の取組(応急仮設住宅の整備、中心市街地のまちづくり、住宅の高台移転など)について、パネルと支援物資の一部を展示しながら紹介しています。

映像資料として、東日本大震災の記録映像「荒れ狂う海～津波常習地・大船渡～」(市立博物館提供)を展示し、市民が撮影した東日本大震災の写真や動画により、市内の地域ごとの被害の様子のほか、明治・昭和三陸地震津波、昭和チリ地震津波と東日本大震災の津波の特徴などを紹介しています。映像は、完全版が20分、短縮版は5分です。日本語のほか、英語、中国語(繁体字・簡体字)、韓国語にも対応しています。

【館内ガイドの様子】



過去の地震津波、東日本大震災津波の特徴などを映像資料で紹介



ジオラマ、パネルで東日本大震災の概要や災害対応を説明



震災当時の避難所生活の様子、復旧・復興の取組をパネルと支援物資の一部を展示し紹介



自然災害から命を守るための避難行動、災害への備えをパネルやハザードマップ、災害備蓄品を展示し紹介

【説明】

館内見学、館内ガイドは、事前に予約が必要です。

連絡先：赤崎地区公民館 0192-22-9833

入館料・ガイド料は、無料です。

開館時間は、9時から17時、水曜日が休館日です。

館内ガイドは、人数が多い場合、グループ分けし、1グループ当たり10人程度での案内になります。(人数や所要時間など予約時にご相談ください)

【寄せられた利用者からの声】

- ・ 海に近い場所で、実際に避難した建物に入れて、支援物資等を見たりできるのは、被災地の中でもとても貴重である。
- ・ 震災当時の説明を聞いて、知らないことが結構あった。
- ・ 写真を見て当時を思い出し涙が出た。
- ・ いろんな所から支援に来てくれたんだなあと人の優しさに感動した。
- ・ 文字だけでなく、当時の物も一緒に展示してあるのが良かった。
- ・ 各部屋ごとにテーマが分かれていて分かりやすかった。
- ・ 実際に物資等が展示してあり、写真で見るより生々しさを感じた。
- ・ 津波の高さや当時の生活の仕方など、災害についてたくさん学べた。
- ・ 避難経路の確認や防災グッズの準備をしようと思った。
- ・ 震災に対する支援にありがたみを感じた。
- ・ 震災の経験者であっても、忘れていたことや知らなかったことがあると感じた。
- ・ 風化させてはならないことだからこそ、学び直しの機会をもらえて良かった。
- ・ 実際自分が今居る空間(座敷)で300人超の人がひしめき合って避難生活を送ったということに驚いた。
- ・ 津波の歴史について学べた。
- ・ いつ災害が起きてもいいように備えることを学んだ。
- ・ 人と助け合うことが大切ということ学んだ。
- ・ 避難所で使用していた物の展示など、次世代に津波のことを伝えられると感じた。